

# 平成26年度地域医療支援病院業務報告（任意的に求められる取り組み）

取組み事項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他			
No.	医療圏	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT（情報通信技術）を用いた病診連携等	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況	
1		糸島医師会病院 (H15.3.13)	一般150	(公財)日本医療機能評価機構による認定(区分3、Ver.6.0)	検査機関による地域の検体集配システム等を利用して、糸島市内の医療機関や行政機関(糸島市役所、糸島消防本部、糸島保健福祉事務所)へ向けて研修会の案内や診療、検査等に関する情報を周知している。また、毎月「糸島医師会病院だより」を発行し、実施した研修会の詳細等、幅広く情報を市内の医療機関へ発信している。	現在検討中(H27年度とびうめネット加入)	福岡市医師会等で策定した「脳血管障害地域連携パス」、「がん地域連携クリティカルパス」をともに、他の医療機関とも連携して、均てん化を図っている。	糸島市内の医療機関職員向けに連携パスの研修会を開催。その研修内容を病院だよりに掲載、配付している。(平成26年度は未実施)	なし	
2		独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16.2.27)	一般650 精神50 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構による認定(平成26年2月19、20日受審、平成26年5月2日認定)	ホームページ、診療年報、広報誌及び地域医療支援病院運営会議、地域連携セミナー、研修会等を開催し、診療内容・医療サービス、診療実績、診療機能分析レポート及び臨床評価指標(国立病院機構総合研究センター作成)を発信している。病院の理念、基本方針をはじめ自院の役割や診療機能等さまざまな内容をホームページにより作成し、定期的又は随時更新している。	現在検討中	福岡市医師会との連携のもと、「大腿骨頸部骨折」、「脳卒中」、「心筋梗塞」、「慢性腎臓病(CKD)」を策定し、福岡県医師会の連携のもとに「胃がん」、「大腸がん」、「乳がん」、「肝がん」、「肺がん」、「前立腺がん」を策定し、本院は術後のフォローアップを担っている。	病院独自での地域連携パスの説明会の実施及び大腿骨頸部骨折・脳卒中の地域連携パス実績の連携先への報告会(年1回)	249名(実数) ・原看護専門学校、福岡県私設病院協会専門学校、福岡市医師会看護専門学校、福岡女学院看護大学、純真学園大学保健医療学部看護学科、国際医療福祉大学、福岡県看護協会	
3		公立学校共済組合九州中央病院 (H18.4.1)	一般330	(公財)日本医療機能評価機構による認定(区分3、Ver.6.0)	本病院ホームページにおいて、院外の関係者に向けて地域医療支援病院としての取り組み、利用方法等の情報を周知するほか、診療実績を公表している。また、広報誌において、登録医及び連携病院の紹介を行っている。	現在検討中	福岡市医師会との連携のもとに脳卒中地域連携パス及び大腿骨頸部骨折パスを策定。福岡市南区医師会と連携し、高血圧パスを策定した。	福岡市医師会地域連携パスワークショップや、がん診療連携協議会に参加し、パス分析のもと、医療の効率化、標準化を検討している。地域の医療機関に個別に説明し、登録の案内を行っている。	198名(実数) ・純心学園大学	
4		福岡市立こども病院 (H19.9.1)	一般233	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価(Ver.6.0)取得	機関誌として、年報(年1回)、情報誌「みらい」(隔月発行)を医療機関や行政機関に配布している。また、情報誌は平成23年12月から地域の診療所に対して電子メールでの送信を行っている。また、平成26年度においては病院のホームページをリニューアルし、受診案内や診療科だよりをはじめ、職員募集等のタイムリーな情報発信を行っている。	現在検討中	現在検討中	—	平成26年度は、病院移転のため、例年受け入れている看護学校実習を受け入れていない。ただし、平成27年3月にインターンシップ20名を受け入れている。	
5		国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 (H21.4.1)	一般468	(公財)日本医療機能評価機構による認定(3rdG:Ver.1.0)	当院ホームページにおいて、セミナー・研修会開催情報を発信し、年4回広報誌「はまかぜ」を発行している。また、登録医のもとに勤務されている看護師さんに研修会の案内を発送。	放射線検査の予約を共有システムにより電子上で予約可能	福岡市医師会との連携のもと、脳卒中連携パス及び大腿骨頸部骨折パスを策定。また、福岡県医師会との連携のもとに福岡県がん診療連携パスを運用している。	当院外来フロアに関連医療機関を掲示し、患者・家族への周知を図っている。	5260名(延べ) ・日本赤十字付属国際看護大学 ・福岡市医師会看護専門学校 ・原看護専門学校	
6	福岡・糸島 (11病院)	福岡県済生会福岡総合病院 (H22.4.1)	一般380	ISO9001の認証取得	当院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知するほか、無料・低額診療、小呂島離島診療所健診を行っていることや、がん診療連携拠点病院であること、及び患者向け情報誌「ふくふくネット」を掲載している。	登録医に対しては、CT、MRI等の検査予約、いくつかの診療科の診療予約をホームページ上で実行している。	福岡市医師会との連携のもと、脳卒中連携パス及び大腿骨頸部骨折パスを策定。また、福岡県医師会との連携のもとに福岡県がん診療連携パスを運用している。	脳卒中連携パス及び大腿骨頸部骨折パスについては、福岡市医師会が中心となって主催する年3回のワークショップに参加して、情報交換を行っている。また、がん連携パスについては、九州がんセンターが中心になり連絡協議会の地域連携部会に県内の拠点病院が集まり普及させるための取り組みを協議している。	1327名(延べ) ・福岡市医師会看護専門学校 ・麻生看護大学 ・高尾専門学校	
7		福岡市民病院 (H23.4.1)	一般200 感染症4	(公財)日本医療機能評価機構による日本医療機能評価機構(3rdG:Ver.1.0-一般病院2審査体制区分3)の認定	本病院のホームページにおいて地域の医療機関、医療従事者向けに患者紹介の方法、診断機器の紹介、院内研修会、勉強会の案内、開放型病床の案内、地域連携パスの案内などを周知している。	現在検討中	福岡市医師会及び関係医療機関とともに、脳血管地域連携パス、大腿骨頸部骨折パス、がん地域連携パス及び慢性腎臓病地域連携パスを策定。	年1回連携先の回復期リハビリテーション病院との間で、医療連携パス連絡会を当院主催で開催し、当該クリティカルパスの概要を説明するとともに、症例検討を通してパスの評価と見直しを行うなど、関係医療機関に周知している。	・1,266名(延べ) ・福岡市医師会看護専門学校、福岡女学院看護大学、純真学園大学、国際医療福祉大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡県看護協会	
8		福岡赤十字病院 (H23.4.1)	一般509 感染症2	なし(平成27年10月受審予定)	当院のホームページにおいて研修会の開催や病診連携について案内するとともに、それらの内容を掲載した広報誌を作成、近隣の病院へ送付し、周知している。	現在検討中	福岡市医師会との連携のもと、「脳血管障害・大腿骨頸部骨折」、「脳卒中」、「慢性腎臓病(CKD)」、「がん地域連携パス」を策定している。	当院において、積極的に活用することで、普及させている。	404名(実数) ・日本赤十字九州国際看護大学 ・学校法人麻生塾専門学校麻生看護大学 ・福岡県看護協会	
9		社会医療法人財団白十字会 白十字病院 (H24.7.27)	一般411 療養55	(公財)日本医療機能評価機構による認定(区分3、Ver.1.0)	毎月月初めに登録医を中心とした医療機関へ外来予定表等を郵送している。病院広報誌「白十字病院だより」を年3回発行、「そつたく会(白十字病院登録医会)」会報を年5回発行、年報誌を年1回発行し登録医を中心に福岡市内の医療機関へ郵送している。なお、「白十字病院だより」、「そつたく会」はホームページでも閲覧が可能となっている。定期郵送物の他にも、外部へのお知らせがあれば随時郵送、渉外活動時に案内するなど情報発信を行っている。また、依頼があれば院外講演を行い、地域住民の方への医療に関する情報を発信している。	地域医療連携ネットワーク「クロスネット」を運営している。当院、登録医療機関及び患者それぞれで利用契約を結んだ上で情報公開しており、「患者基本情報」、「検査結果」、「カルテ記事・オーダー情報」、「画像情報」等を公開している。また、クロスネットを利用している登録医療機関からCT、MRIの検査予約が可能である。	現在検討中	—	—	127名(実数) ・福岡市医師会看護専門学校 ・福岡国際医療福祉学院 ・精華女子高等学校 ・麻生看護大学
10		福岡記念病院 (H26.12.5)	一般239	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目一般病院2<Ver.1.0>取得(平成25年10月4日)病院機能評価付加機能救急医療機能<Ver.2.0>取得(平成25年10月4日)	当院のホームページにおいて、患者様向けのご案内として、診療・検査のご案内をはじめ代表的な高度医療の紹介、部門別特徴の内容として病診連携、医療連携のつどい、看護学生インターンシップのご案内等を掲載し、病院情報の発信を推進している。また、広報誌「face to face」を福岡市、糸島市の医療機関・施設に年4回発行し、当院の最新情報や新任医師の紹介をはじめ、連携医のご紹介や診療情報等を掲載し、患者様への情報提供を推進しているほか、毎年8月に「医療連携のつどい」の中で連携医療機関・施設に年報を配布している。	—	福岡市医師会との連携のもとに地域連携クリティカルパス(大腿骨頸部骨折・脳卒中)を策定し、本病院を計画管理病院として地域連携診療計画書「地域連携パス」を作成し、地域連携機関との間で診療情報を共有・活用することで質の高い医療を提供している。	入院後早期にカルテにより情報収集を行い地域連携パス対象者を把握し、パス対象者であることを主治医・病棟看護師・リハビリスタッフへ報告。近隣の回復期病院に対し連携パス協力医療機関への参加を促進している。	3780名(実数) ・福岡医療専門学校 ・純真大学	
11	福岡和白病院 (H26.12.5)	一般367	(公財)日本医療機能評価機構による認定一般病院2 3rdG:Ver.1.0	院内、院外(地域の公民館等)に地域住民へ健康教室や健康体操のポスターを掲示するほか、登録医療機関や院外関係者に向けて、診療予定や研修会際に関する情報を月に1回発送しており、合同カンファレンスなどの勉強会を積極的に開催し、周知している。また、本病院ホームページにおいても、健康教室、健康体操や特別講演、地域医療研修会等の予定を掲載し、戸別訪問して案内している。なお、新たな設備や治療法導入の際は、関係する医師及び技師による医療機関への訪問活動を行い、情報を発信している。	福岡県診療情報ネットワーク(とびうめネット)に参加し、診療所や近隣病院と必要情報を共有し、地域医療に努めている。	福岡市医師会との連携のもとに脳血管障害地域連携パスおよび大腿骨頸部骨折地域連携パスを策定。	年に3回(3月、7月、11月)開催される地域連携ワークショップの参加や、医師、看護師を中心とした院内パス委員会を月1回開催し周知を図っている。	383名(実数) ・福岡看護専門学校		

取 組 み 事 項				①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
12	粕屋 (1病院)	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター (H19.4.19)	一般541 結核38 感染症12	なし	院内情報誌「ちどり」を定期発行するほか、古賀市の健康フェスタで高齢者に向けた講演や、医師会等での講演を行った。	放射線検査の予約を共有システムにより電子上で予約可能	福岡市医師会との連携のもとに脳卒中地域連携バス及び大腿骨頸部骨折バスを策定し、福岡県医師会との連携のもとにがん地域連携バスを策定。また、肺結核地域連携バスを策定し、発生地域を管轄する各保健所と連携した入退院の円滑化を図っている。	地域医療支援病院運営委員会、各種検討会において情報発信するとともに、関係医療機関と密に情報交換している。	228名(実数) ・福岡看護高等専修学校、福岡女学院看護大学、福岡水巻看護助産学校、福岡市医師会看護専門学校、九州医療センター付属福岡看護助産学校
13	宗像 (1病院)	宗像医師会病院 (H12.3.31)	一般164	(公財)日本医療機能評価機構による認定(区分3、Ver1.0:平成25年8月18日)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知するほか、看護学校実習生の受け入れ状況を記載している。また、登録医に対して共同利用に係る「ご利用ハンドブック」を毎年発行している。	地域の診療所とムーンネットを構築し、必要情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画に基づいたがん治療連携に参加し、宗像医師会との連携のもとに、腫瘍内科・緩和ケア病棟を設置し、がんに関して地域で完了する体制を構築している。	宗像医師会を通じて普及させている。	185名(実数) ・宗像看護専門学校 ・日本赤十字九州国際大学 ・純真学園大学
14		福岡大学筑紫病院 (H19.4.19)	一般308 感染症2	なし	本病院のホームページ、広報誌(ちくしニュース)、パンフレット、年報等を用いて、共同利用に関すること、看護学校実習生の受入状況、クリティカルパスに関する内容を周知している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット)参加	筑紫医師会及び関係医療機関とともに「脳血管障害地域連携バス」を策定し、年3回の連携医療機関同士の会合を開催し、勉強会や症例検討を行い連携を図っている。	3施設を基幹病院とし「大腿骨頸部骨折地域連携バス合同運用会議(ちくし骨骨ネット)」を年3回、連携医療機関と開催している。	336名(実数) ・福岡大学医学部看護学科、国際医療福祉大学、福岡女学院看護大学、アカデミー看護専門学校、国際医療福祉学院、筑紫看護高等専修学校、あさくら看護学校、福岡看護専門学校
15	筑紫 (3病院)	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20.4.1)	一般600 感染症2	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdG:ver1.0取得(平成25年11月)	ホームページや登録医療機関をはじめ近隣医療機関約730施設に毎月病院情報(研修・医療講演)を送付	循環器内科において地域の5施設と情報共有を行い、継続性の高い医療提供に努めている。	福岡市医師会、筑紫医師会及び地域の関係機関とともに「脳卒中地域連携バス」を策定し、地域完結型医療を実践している。	関係医療機関と年3回会合を行っている。	733名(実数) ・純心学園大学、高尾専門学校、九州看護福祉大学、福岡看護専門学校、自衛隊福岡病院准看護学院、筑紫看護高等専修学校、純真高等学校
16		福岡県済生会二日市病院 (H24.7.27)	一般260	(公財)日本医療機能評価機構による認定(Ver6.0:平成23年11月4日)	広報誌の活用	本病院のホームページにおいて、MRI検査の空き状況を公開するほか、医師不在表、前述の広報誌を掲載することで病診連携を図っている。	筑紫医師会及び関係医療機関とともに「脳卒中地域連携バス」及び「大腿骨頸部地域連携バス」を策定。	3か月に一度協力病院との勉強会を行っている。	・496名(実数) ・高尾看護専門学校 ・筑紫看護高等学校 ・麻生看護専門学校
17	朝倉 (1病院)	朝倉医師会病院 (H12.3.31)	一般300	(公財)日本医療機能評価機構による認定(区分3、Ver6.0)日本生産本部JHQCクオリティクラスA認証	ホームページにおいて、院外に向けた各種勉強会、研修会、特定健診、人間ドック「地域講演会」等への講師派遣の案内を行っている。	地域連携システムを医師会員が利用しており、専用端末からインターネット回線を経由して紹介した患者の診療情報を閲覧し、共同診療などに役立っている。また、ネットワークを介して紹介状や返書のやりとり、診療所からの中核病院の診療予約の取得などが行える。	現在検討中	—	160名(実数) ・あさくら看護学校 ・緑生館 ・福岡看護専門学校
18		聖マリア病院 (H20.4.1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	日本医療機能評価機構による機能評価、ISO9001及びISO15189取得	広報誌「耳納の朝」の発行を毎月発行するほか、ホームページにおいて高度医療機器等に係る利用案内を掲載し、共同利用の促進を図っている。また、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知している。	ID-Linkを用いてカルテ情報を他の病院やクリニックへネットワーク経由で聖マリア病院の医療情報を開示している。	久留米医師会との連携のもと、「久留米大腿骨近位部骨折連携バス」及び「筑後地域脳卒中連携の会地域医療連携バス」を策定。また、久留米大学病院と当院においてがん連携バスを策定。	がん地域連携バスについては、聖マリア病院ホームページで情報公開し、関係医療機関へ周知している。	1,371名(実数) ・聖マリア学院大学、久留米医師会看護専門学校、緑生館、佐賀女子高校、長崎玉成高校、鳥栖三養基医師会看護高等専修学校他
19	久留米 (4病院)	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22.4.1)	一般202	日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdGver1.0取得	ホームページ及び広報誌にて、診療内容及び診療実績に関する情報発信を行っている。専従の前方連携担当者を配置して更なる情報発信を行う。	くるめ診療情報ネットワーク協議会(アザレアネット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有を病院・診療所と行っている。	筑後地区脳卒中連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携バス運用に関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養士、SWがそれぞれの部会に参加している。	1,426名(延べ) ・久留米医師会看護専門学校 ・高尾看護専門学校 ・杉森高校看護科
20		嶋田病院 (H23.4.28)	一般150	日本医療機能評価機構第1回更新受審	広報誌、ホームページ、フェイスブック、メールマガジン、院内・院外健康教室、連携だより	くるめ診療情報ネットワーク協議会(アザレアネット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有を病院・診療所と行っている。	循環型糖尿病地域連携バス、大腿骨頸部骨折・脳卒中回復期バス	地域連携講演会、薬業連携会議、医科・歯科連携会議、コーディネーターの運用等	632名(延べ) ・純心学園大学保健医療学部看護学科 ・アカデミー看護専門学校 ・医療福祉専門学校緑生館総合看護学科 ・精華女子高等学校
21		田丸中央病院 (H24.7.27)	一般179 療養71 精神93	日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3rdGver1.0取得	ホームページにおいて当院の概要及び研修会の案内等を周知している。	現在検討中	現在検討中	—	100名(実数) ・精華女子高等学校看護科専攻科 ・麻生看護大学
22	八女 ・ 筑後 (1病院)	公立八女総合病院 (H26.12.5)	一般300	現在検討中	院外の関係者に向けての研修の開催に関する情報は、その内容により、八女筑後医師会及び関係医療機関や消防署宛にFAXでお知らせを行っている。	八女筑後医療情報ネットワーク(IDリンク)の運用開始で、複数の医療機関で連携医療のために必要な診療情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。	八女筑後医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルバス」を策定し、がん診療連携拠点病院である本病院として、がん診療連携拠点病院以外の医療機関とも連携し、がん医療の均てん化を図っている。	八女筑後医師会に医療機関より問い合わせがあった場合、本クリティカルバスの説明をしていただいており、連携医療機関として届出がない医療機関については直接連携医療機関に向き、運用の説明を行っている。	133名 ・八女筑後看護専門学校、九州看護福祉大学、福岡看護専門学校、杉森高校、城北高校、九州アカデミー学園、緑生館
23	有明 (1病院)	大牟田市立病院 (H24.7.27)	一般350	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目一般病院23rdG:ver1.0取得(平成26年3月7日)	本病院のホームページにおいて、開放病床や各種研修会の案内を掲載しているほか、文書による研修会の案内も随時行っている。また、院外向けや広報誌の発行や院内の電子掲示板による情報の発信、逆紹介推進を目的とした医療機関のパンフレットの設置も行き、情報発信に努めている。	地域医療連携システムを導入し、登録医療機関との情報共有に努めている。	大牟田市医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルバス」(大腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がん)を策定し、がん拠点病院である本病院を基幹病院として、地域医療機関と連携し、がん医療の均てん化を図っている。	ホームページにおいて、本クリティカルバスの概要を説明するとともに関係医療機関に周知している。連携医療機関として届出がない医院からの紹介時には、訪問してバスの説明をし、連携を依頼している。	250名(実数) ・大牟田医師会看護専門学校、九州看護福祉大学、熊本看護専門学校、杉森高等学校
24	飯塚 (1病院)	飯塚病院 (H17.4.1)	一般978 精神138	ISO9001及びISO14001の取得	ホームページや広報誌を活用して、院外の関係者に向けて当院の診療実績や研修開催情報を周知している。また、研修開催案内は各医療機関に対して郵送している。	放射線検査の予約を共有システムにより電子上で予約可能	福岡県医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルバス」を策定し、がん拠点病院として、がん拠点病院以外の医療機関とも連携し、がん医療の均てん化を図っている。	年3回、地域連携バス研究会を実施し、関係施設と連携を図っている。また、脳卒中の連携バスについては医療機関と電子メールで情報交換を行い、情報共有を図っている。	833名(実数) ・福岡県立大学、近大附属福岡高校、麻生看護大学、飯塚医師会看護高等専修学校、おばせ看護学院、博多高等学校、日本赤十字九州国際看護大学

取 組 み 事 項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他			
25	田川 (1病院)	社会保険田川病院 (H26.12.5)	一般348	(公財)日本医療機能評価機構による検査体制区分3 Ver.6.0(平成23年5月19日)	2ヶ月に1回発行している広報紙「あおぞら」とホームページにて、医療関係者ならびに患者に対して医療情報、健康情報、研修情報などを情報発信している。地域医療機関に対して診療案内(診療医、診察日の変更等あればその都度)をFAXで送信している。また、当院の研修担当職員を病院外(福岡県立大学、医療機関、介護施設、企業等)に派遣して様々な情報を発信している。	高額医療機器の共同利用促進のため、ICF(画像ネットワーク)を導入している。CT、MRI、内視鏡検査(胃、大腸)の検査予約、放射線読影医師のレポート並びに画像送信を行っている。救急対応においてもできる限り対応している。	・大腿骨頸部骨折クリティカルパス ・5大がん連携クリティカルパス ・脳卒中クリティカルパス計画(平成27年8月より実施)	登録医療機関の実務者会議も定期的に開催し、情報の共有を図っている。(現在24施設)	181名 ・福岡県立大学看護学部 ・筑豊看護専門学校
26		小倉記念病院 (17.4.1)	一般658	なし	当院ホームページ又は、直接訪問などで各診療科の取り扱う主な疾患、特色、専門分野等の情報を院外に向けて掲載している。また、研修の開催に関する情報を登録医療機関に郵送やFAX等の方法で周知している。	現在検討中	北九州市医師会や関係大学病院協働のもと発足された北九州脳卒中・大腿骨近位部骨折地域連携バスと、北九州市医師会のもとに発足した北九州循環器疾患地域連携バスの運用において、地域における医療機関の包括的な疾患管理を目指している。	医師会を通じての運用説明会や協議会に参加することで、周知を図っている。	366名(実数) ・北九州小倉看護専門学校 ・日本赤十字九州国際看護大学 ・西南女学院大学 ・福岡県立大学
27		製鉄記念八幡病院 (H17.4.1)	一般453	(公財)日本医療機能評価機構による認定(平成25年3月:Ver.6.0)	健康増進、維持に役立てていただくことを目的に、病気や医療に関する健康講座を市民向けに2002年から開始し、約50回にわたり継続している。また、2015年からは、より地域に密着した「出前講座」という形式で各市民センターにおいて健康長寿のための講座を無料で提供し、地域社会貢献につながる活動を展開している。病院のホームページにて院外医療従事者向けの研修会や地域住民に対する健康講座の開催に関する情報のほか、救急医療についての概要、登録医療機関情報等を掲載している。また、院外広報誌「こんにちにはせいてつ病院です」は当院が目指す「救急医療の充実と地域のニーズに応える質の高い地域医療の実践」を基本に、医療情報サービスとして位置付け、年4回(4,500部/回)発行しています。	地域医療連携システム「SMILE」を開発し、登録医療機関と情報を共有することで、効率的で質の高い医療の提供に努めている。	北九州地区の急性期病院及び回復期・慢性期病院と連携し、特定の疾患(脳卒中、大腿骨近位骨折)について地域連携バス(北九州標準モデル)を運用している。	疾患毎の協議会に加わり、研修や意見交換会に参加することで、課題の解決や医療機関相互の連携協働に努めている。	224名(実数) ・八幡医師会看護専門学校 ・西南女学院大学
28		戸畑共立病院 (H17.4.1)	一般218	(公財)日本医療機能評価機構による認定(平成25年3月1日:Ver.6.0)	広報誌(年4回発行)やインターネットを使用して研修の開催や最新の医療機器を紹介している。地域の医療機関を紹介できるよう、リーフレットを作成し、患者さまが手に取れるように地域連携室前に設置している。	平成26年より地域の医療機関とインターネットを用いて情報交換を行い、地域における継続性の高い医療の提供を計画している。	北九州地域連携バス(脳卒中、頸部骨折)を使用し、計画病院として維持期、回復期病院と連携をとり、患者情報を共有し、医療の質の向上に努めている。がんの地域連携バス(胃・大腸・肺・乳がん・肺がん・前立腺がん)を使用して患者様が地域で安心して医療を受けることができるように地域の連携病院と、がん医療の均てん化に努めている。	年2回の北九州地域連携協議会に出席し、情報共有を行い、院内に協議会の内容を発信している。地域連携バスの利用率、バス使用の在院日数を院内での各種会議で報告を行い、院内での普及に努めている。	154名(実数) ・折尾実真高等学校 ・美萩野女子高等学校 ・北九州戸畑看護専門学校
29	北九州 (10病院)	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 (H19.4.19)	一般575	(公財)日本医療機能評価機構Ver6 2009年認定、3rdG一般病院2014年受審	ホームページにおいて、院外の関係者へ研修開催に関する情報周知している。また、研修会ポスターをチラシとして登録医や地域住民、薬局に配布している。広報誌「連携のかけはし」(月1回)、「メディカルナウ」(年4回)を発行している。必要時、連携医療機関や在宅医療、在宅養サービス関係者へ情報発信の文書を発送している。	放射線検査の予約を共有システムにより電子上で受け付ける他、患者の同意のもと、かかりつけ医がインターネット回線を利用して当院の電子カルテの一部が閲覧できる「きしのうらネット」を展開している。また、在宅医療、在宅療養サービスでの情報交換ツールとして「北九州市ひまわりネットワーク推進事業」への参加や、とびうめネットの運用を行っている。	北九州市医師会との連携のもと、①大腿骨近位部骨折、②脳卒中、③胃がん、④大腸がん、⑤肺がん、⑥乳がん、⑦肝がん、⑧前立腺がんの連携バスを策定。	いずれの地域連携バスも地域関係者の定例会議において、広報誌や研修会での説明を行っている。	4559名(実数) ・西南女学院大学 ・八幡医師会看護専門学校
30		独立行政法人国立病院機構小倉医療センター (H20.4.1)	一般350 精神50	なし	毎月、メール便にて500程度の医療機関へ、院外関係者向けの研修の案内や院内広報誌等のさまざまな情報を発送している。	現在検討中	現在検討中	—	8,151名(延べ) 西南女学院大学、専門学校北九州看護大学、遠賀中央看護助産学校、福岡女学院看護大学、北九州戸畑看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡看護専門学校
31		独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21.4.1)	一般450	日本医療機能評価機構昨日種別評価版評価項目3rdG:Ver.1.0[一般病院2](平成25年11月1日認定)	診療連携広報誌の発行(年4回、送付先約650医療機関)患者向け広報誌の発行(年4回+α(必要に応じ臨時発行)、1,500部/回)ホームページの随時更新連携医療機関を対象とした医療連携懇談会の実施(年1回)京都医師会との合同症例検討会の実施(年1回)市民公開講座の開催	現在はまだ導入されていないが、近年導入する方向でシステム導入計画を策定中。県医師会のとびうめネットに平成27年度中に参画予定。	大腿骨近位部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	北九州市大腿骨近位部骨折地域連携バス協議会(病院長が協議会の長に就任)への参画北九州市脳卒中地域連携バス協議会への参画医局会等での院内医師に向けた利用促進を依頼	136名(実数) 小倉看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、京都医師会看護高等専修学校、西南女学院大学
32		健和会大手町病院 (H21.4.1)	一般527	(公財)日本医療機能評価機構Ver6 2009年認定、3rdG一般病院2014年受審	ホームページ及び広報誌を用いて情報の発信を行っている。また健和会の医療活動をまとめた医報を年に1回発行し、登録医をはじめ地域の医療機関に配布している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット)参加	地域の医療・介護期間と連携して「胃瘻ボタン交換バス」の活用を行っている。	セミナー等での意見交換を行っている。	692名(延べ) 健和看護学院 戸畑看護専門学校 製鉄記念八幡看護専門学校 東亜看護学院
33		北九州市立医療センター (H23.4.1)	一般620 感染症16	(公財)日本医療機能評価機構による日本医療機能評価機構(Ver.6.0)の認定(平成24年3月2日)	ホームページ・Eメール・FAX・病院広報誌「輪」(年4回発行)により、登録医や地域の医療機関に向けて、医療連携や地域の医療従事者を対象にした研修等に関する情報を発信している。また、患者・市民を対象に広報誌「こんにちには!!医療センターです」(随時発行)にて情報提供している。看護・助産学生、薬剤師・臨床検査技師の学生の受け入れを積極的におこなっている。	地域医療連携ネットワーク「連携ネット北九州」を導入し、北九州市立医療センターで受診した際の検査結果等を地域の医療機関とインターネットで共有しており、地域医療の質の向上を図っている。また、今後、サマリ等の公開を予定している。	福岡県がん地域連携バス 胃がん(16施設25件) 大腸がん(8施設10件) 乳がん(7施設8件) 肺がん(4施設4件) その他のクリティカルバス 脳卒中連携バス(2施設14件) 肝炎インターフェロモン(3施設3件) 乳がんホルモン(3施設3件)	退院時にクリティカルバスの利用を積極的に薦めているほか、計画的に地域の医療機関を訪問し協力を求めている。新規に運用するバスについては、関係診療科に説明会を開催している。	276件(実数) 小倉看護専門学校、西南女学院大学、北九州小倉看護専門学校、北九州市立看護専門学校、門司区医師会看護高等専修学校、久留米大学認定看護師教育課程がん化学療法看護、久留米大学認定看護師教育課程緩和ケア
34		独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター (H24.7.27)	一般250	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目3Ver.1.0(平成26年3月7日)	ホームページに研修案内等を掲載している。また、院外の医療機関に向けて研修会の案内や広報誌等を地域連携室より送付し情報提供を行っている。	現在検討中(とびうめネットに参加予定)	現在検討中	脳卒中に対する地域医療連携バスを平成27年9月から運用予定。	2074名(実数) 門司区医師会看護高等専門学校 北九州市戸畑看護専門学校
35		遠賀中間医師会おんが病院 (H24.7.27)	一般100	なし	ホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知し、看護学校実習生の受け入れを積極的に行っていること等を掲載している。	現在検討中	現在検討中	—	31名(実数) 遠賀中間医師会看護助産学校
36	京築 (1病院)	新行橋病院 (H22.4.1)	一般246	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別版評価項目2ndG:Ver.5.0取得(平成21年9月27日)、3rdG:Ver.1.0審査終了済(平成26年8月)	ホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知している。広報誌(年4回)、連携室便り(年2回)を各病院等へ配布するなどし、必要情報を共有するよう努めている。	現在検討中	脳卒中地域連携バス	地域の病院やクリニックへ訪問し、連携への協力を促している。	169名(実数) 京都医師会看護学校、豊前薬上医師会看護学校等他2校